

# ＜産業廃棄物削減対策の取組み＞

2014年1月8日

業種名（団体名）一般社団法人 日本伸銅協会

## ◇産業廃棄物最終処分量削減目標

「2015年度において、2000年度比30%以下に削減する（1800トン年以下）」

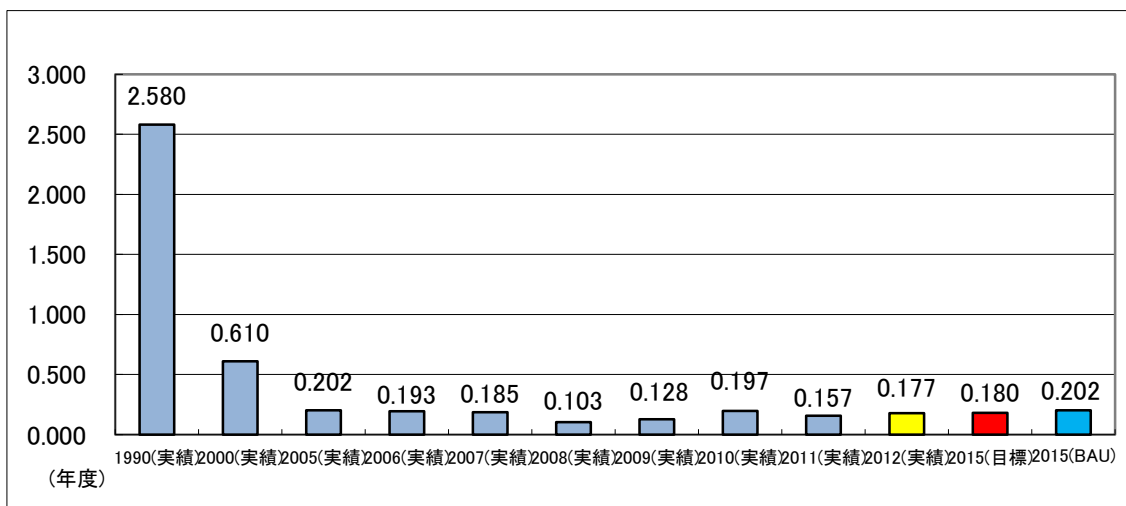
## ◇業種別独自目標 各業種が自ら掲げた目標

〔最終処分量原単位〕：2015年度において、2000年度比35%以下に削減する。

### 1. 目標達成度

(1) 産業廃棄物最終処分量実績

(単位：万トン)



※ カバー率： 86.0%

〔算定根拠：算定根拠 A:回答社全生産量、B:会員会社の総生産量  
カバー率=A/B×100〕

※ 2015年度BAUは、2005年度の実績値をベースに算出

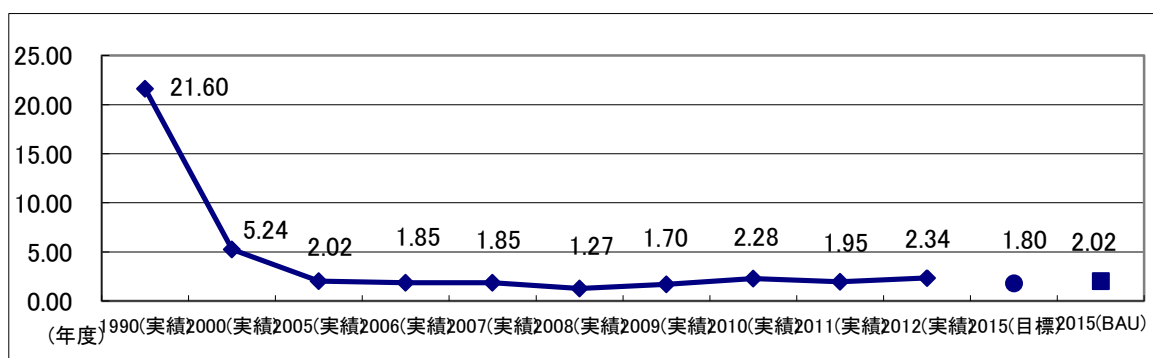
〔算定根拠：2005年度以降、生産量が同水準でゼロエミ化を実施しなかった場合及びメーカーが日常の削減努力を実施しない場合とした。〕

※ 東日本大震災の影響について  
特記すべき影響はなかった。

(2) 独自目標の達成状況

産業廃棄物最終処分量原単位

(最終処分量 kg/生産量トン)



※ 指標の定義・算定方法等

〔定義・算定方法：最終処分量原単位〔最終処分量 kg/伸銅品生産量トン〕

※ カバー率： 86.0%

〔算定根拠：算定根拠 A:回答社全生産量、B:会員会社の総生産量  
カバー率=A/B×100〕

※ 2015年度BAUは、2005年度の実績値をベースに算出

[算定根拠：2005 年度以降、生産量が同水準でゼロエミ化を実施しなかった場合及びメーカーが日常の削減努力を実施しない場合とした。]

※ 東日本大震災の影響について  
特記すべき影響はなかった。

## 2. 主要データ

### (1) 生産量・再資源化量・最終処分量・再資源化率

年度	1990 実績	2000 実績	2005 実績	2006 実績	2007 実績	2008 実績	2009 実績	2010 実績	2011 実績	2012 実績	2015 目標	2015 BAU
生産量 [単位：万トン]	119.7	116.4	100.3	104.4	99.8	80.7	75.4	86.4	80.6	75.9		
再資源化量 [単位：万トン]	1.031	5.099	3.781	3.125	3.319	2.873	3.385	2.735	2.641	2.594		
最終処分量 [単位：万トン]	2.58	0.61	0.202	0.193	0.185	0.103	0.128	0.197	0.157	0.177	0.180	0.202
再資源化率 [%]	28.5	89.3	94.9	94.2	94.7	96.6	96.4	93.3	94.4	93.6		

※ 指標の定義・算定方法等

[再資源化率=再資源化量(t) ÷ {再資源化量(t) + 最終処分量(t)}]

※ 東日本大震災の影響について  
特記すべき影響はなかった。

(2) その他参考データ  
特になし。

## 3. 目標達成への取組み

(1) 最終処分量

別表 1、2 に示す取組としている。

(2) 独自目標

最終処分量の原単位を 2015 年度において 2000 年度比 30% 以下に削減するための具体的取組みとして、別表 1、2 に示す対策を着実に実施している。

## 4. 循環型社会形成に向けた取組み

- ① 伸銅協会内のエネルギー・環境対策委員会において産廃削減事例報告や情報交換による相互研鑽を推進。特に、ゼロエミ化達成工場、環境関連施設の見学会や講演会等の実施を継続中。
- ② ゼロエミ達成工場の一メーカーでは、伸銅業のゼロエミ活動の取組みを、県内・東京等の講演で紹介し相談にのっている（同業他社からの依頼で産廃処理の指導に協力）。更に、ゼロエミ化活動を通し、再資源化の質の改善「サーマルリサイクル」から「マテリアルリサイクル」等に変えることにより、省エネ・省資源・コストダウンを同時に実現できることの成果を同業他社へ横展開に向け継続努力していく。

## 5. 循環型社会のさらなる進展に向けて企業が直面する課題と課題解決に向けた政府・地方公共団体に対する要望

特記すべき事項はありません。

## 6. その他

特にありません。

### ＜別表1＞ 平成24年度実施内容

- ・燃えるごみの分別強化：雑誌、カタログ、メモ用紙など分別して再生業者へ引き渡す
- ・納入業者のフレコンバックに業者名、品名を明記して、回収率を高めた。
- ・廃油、廃プラ（カラコン・トレー）、一般廃棄物（ミックス紙など）の有価物化
- ・製品パレットの回収率の向上
- ・電気分解による銅イオン回収で廃酸の再利用化促進
- ・脱脂液の変更による廃アルカリの社内処分化
- ・油漏れ対策、フィルター設置などによる油延命化で廃油の削減
- ・油水分離層の活用による廃油量削減（44.5t ⇒39.2t）
- ・金属くずの分別を徹底して、金属くずを有価で売り、廃棄物を削減
- ・ビニールロールの有償化で廃棄物削減（15t）
- ・廃油の処理工程改善で廃油の削減（8t）
- ・梱包資材の簡素化及び回収再利用の促進
- ・不燃物コンテナへの投入時に再選別を行い、埋立量を削減
- ・品質トラブルの減少により設備の潤滑使用料が減少して廃液減少（200t）
- ・廃油・廃液の処理設備のメンテナンス強化による処理量増加
- ・廃プラスチックのサーマルリサイクル化
- ・電子ファイル化促進による印刷紙使用量の削減（用紙購入料5%削減）
- ・木製パレットの社内再生による木屑量の減少
- ・廃酸の社内処理化で廃酸産廃量をゼロ化
- ・有価引取り業者の選定と実施

### ＜別表2＞ 平成25年度の活動計画

- ・ホウ素処理汚泥の有価物化の推進
- ・酸化スケールからの銅分回収の推進
- ・廃アルカリの濃縮による廃液の減量化
- ・脱水効率のアップ（脱水機の補修、メンテナンス）による、汚泥発生量の5%削減
- ・工程短縮（酸洗工程の省略）による、硫酸使用量（廃酸重量）の5%削減
- ・工場全体での可燃廃棄物の発生量低減活動
- ・再資源化に向けた、処理業者の開拓
- ・廃液処理装置の安定稼働、分別廃棄指導の継続実施
- ・設備点検強化による廃棄物発生未然防止
- ・検索砥石等、非再資源化産業廃棄物の再資源化の検討・実施
- ・廃油の分別徹底により廃油の有償化の検討
- ・油水分離の徹底による廃油の産廃委託量の削減
- ・木屑、汚泥、レンガ屑の再資源化の検討
- ・木製パレットの再利用率、再生率の向上